震災の中で方言研究者ができること、なすべきこと

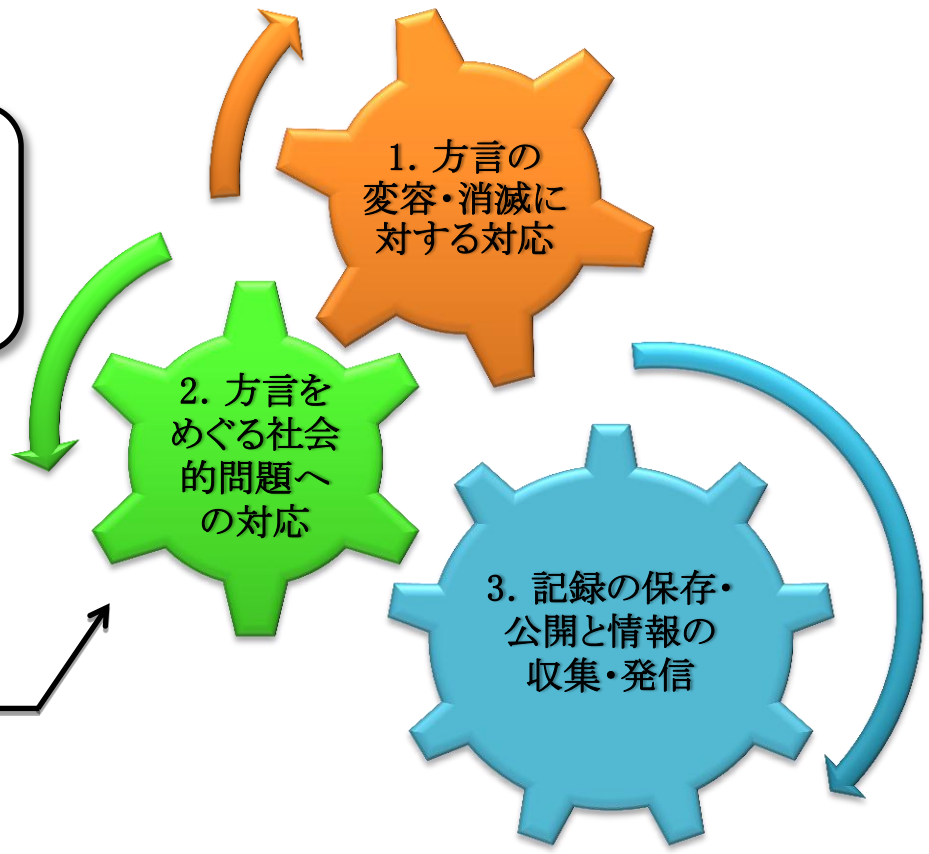
津田　智史（東北大学大学院生・日本学術振興会特別研究員 DC2）
小林　隆（東北大学）

本発表の目的

被災地域の方言、そして方言話者に対して、方言研究者が取り組むべき課題を全体的に整理し、これからの活動の指針を示す。

東日本大震災が方言学にもたらした課題

1. 方言の変容・消滅に対する対応
2. 方言をめぐる社会的問題への対応
3. 記録の保存・公開と情報の収集・発信



― 上記課題に対する具体的な取り組み ―

1. 方言の変容・消滅に対する対応

(1) 消滅の危機に瀕する方言の学術的な記録

- 消えゆく可能性のある方言についての検討
- 記述的、地理的両面からの記録計画の立案
- その準備としての被災地における先行研究の文献目録の作成　（→『東日本大震災と方言』ほか）

(2) 地域住民の生活語としての方言の継承

- 生活語としての方言の価値や必要性を検討
- 地域住民への啓蒙活動
- 地域一体となった計画の遂行

(3) 変容する方言の実態研究

- 「変異」「変化」をキーワードとする研究の推進
  : 共通語化、言語接触、移住と方言、言語習得、言語計画、言語景観など

2. 方言をめぐる社会的問題への対応

(1) 現実的に起こることが予想されるトラブルへの対応

(1-1) 被災地におけるトラブルへの対応

- 医療現場で役立つオノマトペ用例集　（→竹田晃子氏）
- 被災地方言パンフレットの作成
  （→「支援者のための気仙沼方言入門」）

(1-2) 避難先におけるトラブルへの対応

(2) 方言を利用した被災者の激励・被災地の復興協力

- 方言エール、方言スローガンの検討と、その利用
  （→田中宣廣氏、『東日本大震災と方言』ほか）
- 方言を使った催し物の開催など

3. 記録の保存・公開と情報の収集・発信

- 収集された方言の記録の適切な蓄積・公開
- 震災と方言の関連情報を収集し発信するシステムの構築

「東日本大震災：「故郷を離れ定住」10 ポイント増の 63%」(毎日 jp)

宮城県気仙沼市から福井県坂井市に移った女性(48)は雑貨店を始めたが**「古里の言葉で話せず、仕事に慣れるまでストレスを覚えた」**と打ち明けた。折れそうな心を救ったのは、故郷に残った友人らとの電話でのやりとりだったという。(一部抜粋)

方言の心理的機能

東北大学方言研究センターの今後の活動

①被災地の方言の記録、特に談話資料の収集
上述 1(1)、2(1)(2)の課題への対応

②被災者の避難先での言語生活の実態と言語摩擦についての調査
上述 2(1-2)の課題への対応

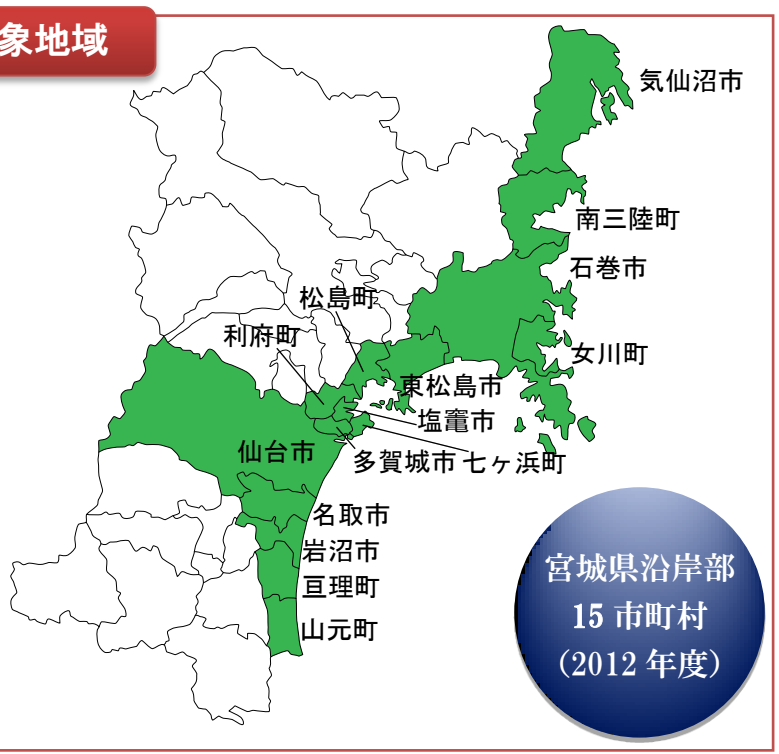
③東日本大震災と方言に関する情報ネットワークの構築
上述 3 の課題への対応

中西太郎ポスター発表へ

被災地の方言談話を収録し、記録と支援のために役立てよう！

①被災地の方言の記録、特に談話資料の収集

対象地域



宮城県沿岸部
15 市町村
（2012 年度）

談話の内容

A.自由会話（3 つの話題を設定）
→震災の体験／地域の伝統文化／方言に対する思い入れ
B.ロールプレイ会話
→言語行動の種類に基づいて設定（挨拶、依頼・受託・断り、感謝・謝罪、等）

談話資料の公開

(1) 形態：録音資料、文字化資料、解説
(2) 公開：報告書形式、および、電子データを Web サイトで
(3) 被災地への支援活動の一環としての工夫
・Web サイト「東日本大震災と方言ネット」に方言会話コーナーを開設する。
→被災者に対しては、ふるさと方言の心理的効果による支援
→支援者に対しては、活動する地域の方言理解のための支援
・支援者向けの方言パンフレットに、現地の会話例として盛り込む。

②被災者の避難先での言語生活の実態と言語摩擦についての調査

被災地そのものに集中していた視線を、避難先へと広げよう！

調査地域

次の観点から選定する。
・避難形態の異なり
（個人、家族、集団、地域全体）
・避難先の方言圏
（東北方言、関東方言、近畿方言等）
・避難の期間
（短期、長期、移住）

▼避難元としては、できるかぎり
青森・岩手・宮城・福島・茨城
の 5 県を対象に。

調査内容

・避難者の方言使用状況（出身地方言、避難先方言、共通語）、およびそれに関する意識
・避難先の住民との方言に関する言語摩擦、およびそれに関する意識
・方言を使った言語生活全般における悩みや要望
・避難者の方言に対する受け入れ側住民の態度や意識

実態の把握から支援策の検討へ

・避難者と受け入れ側住民との相互理解を目指したい。

みなさまへのお願い

被災地の**方言談話の組織的収集**、全国各地での**避難者に対する調査**、
そして、**情報ネットワークへの情報提供**など、ご協力お願いいたします。

東北大学方言研究センター　〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内27-1
TEL・FAX 022(795)5987・5988 / Eメール kobataka@sal.tohoku.ac.jp